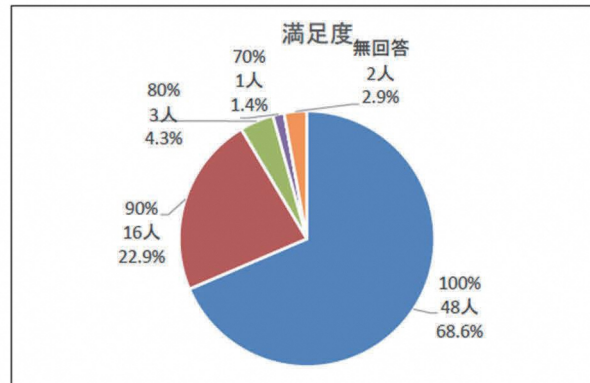


●満足度

	人数(人)	割合(%)
100%	48人	68.6
90%	16人	22.9
80%	3人	4.3
70%	1人	1.4
60%未満	0人	0.0
無回答	2人	2.9
合計	70人	100

考察

・60%未満の方はおらず、教室に満足している。



●考察

・70～80代の参加者が多いが、若い方も家族のために参加されていた。  
 ・広報させば8月号の教室の案内が、日にち、場所を二次元コードで読み取るようになっていたが、参加者から高齢者には難しいという意見があった。

《食改ボランティアとの連絡について》

・昨年度に引き続き、食改研修会の際に連絡内容とレシピを配布した。  
 ・研修会の日程によっては4か月前に資料を渡すこととなったため、配布されていないなどの行き違いがあった。  
 ・研修会の欠席者とくわしく編のボランティアには電話で連絡した。

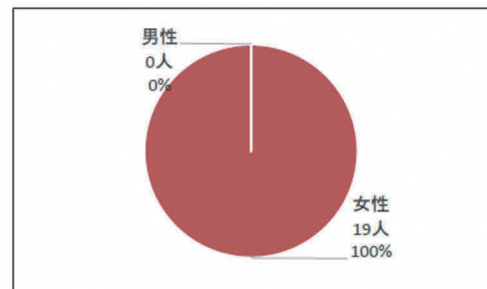
令和6年度 介護食づくり教室(くわしく編) アンケート集計

●性別

	人数(人)	割合(%)
男性	0人	0.0
女性	19人	100.0
合計	19人	100.0

【考察】

・女性参加者が100%だった。  
 ・いきいき・介護ともに初参加の方は1名、介護食づくり教室に初参加は4名であった。  
 ・14名はかんたん編に参加している。

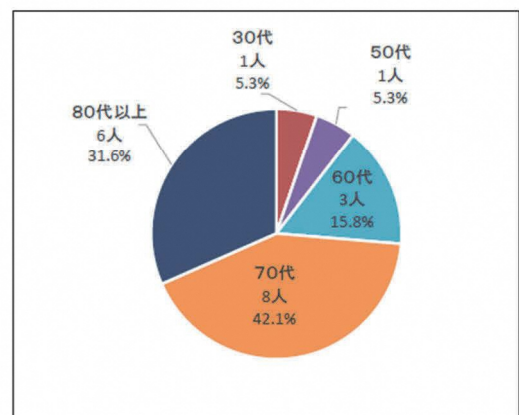


●年齢

	人数(人)	割合(%)
20代	0人	0.0
30代	1人	5.3
40代	0人	0.0
50代	1人	5.3
60代	3人	15.8
70代	8人	42.1
80代以上	6人	31.6
合計	19人	100.0

考察

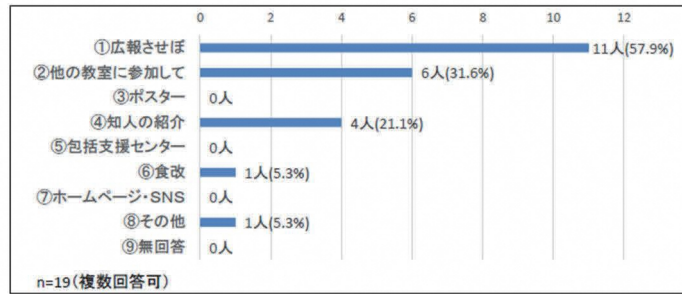
・60代以上の参加者がほとんどである。



●どのようにして知ったか(回答者19名 複数回答)

	人数(人)	割合(%)
①広報させぼ	11人	57.9
②他の教室に参加して	6人	31.6
③ポスター	0人	0.0
④知人の紹介	4人	21.1
⑤包括支援センター	0人	0.0
⑥食改	1人	5.3
⑦ホームページ・SNS	0人	0.0
⑧その他	1人	5.3
⑨無回答	0人	0.0

「⑧その他」の詳細: 家族

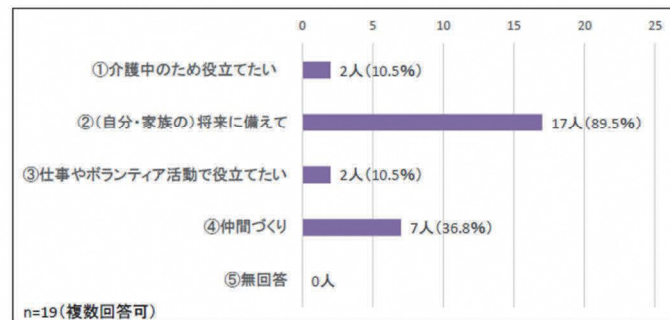


考察

- ・「①広報させぼを見て」で参加されている方が多い。
- ・「②他の教室に参加して」はいきいきや介護かんたん編に参加されている。
- ・ポスターは0であったが、コミュニティセンターのポスターを気が付けて見るようにしていると話される方もいた。

●参加したきっかけ(回答者19名 複数回答)

	人数(人)	割合(%)
①介護中のため役立てたい	2人	10.5
②(自分・家族の)将来に備えて	17人	89.5
③仕事やボランティア活動で役立てたい	2人	10.5
④仲間づくり	7人	36.8
⑤無回答	0人	0.0

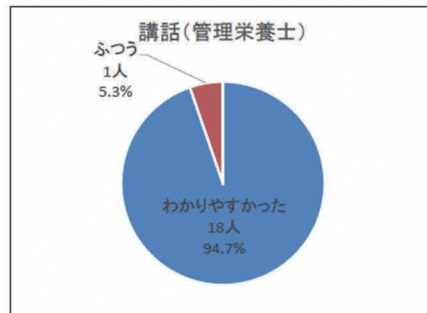


考察

- ・介護中以外の方は「自分・家族の将来に備えて」に参加されている。
- ・また仲間づくりのために参加している方は36.8%で友人を誘って参加されたり、教室を通じて顔見知りになられ、和気あいあいと楽しまれている。

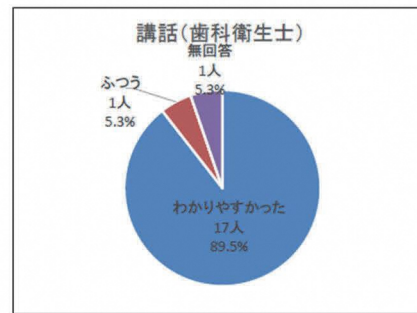
●講話について(管理栄養士)

	人数(人)	割合(%)
わかりやすかった	18人	94.7
ふつう	1人	5.3
むずかしかった	0人	0.0
無回答	0人	0.0



●講話について(歯科衛生士)

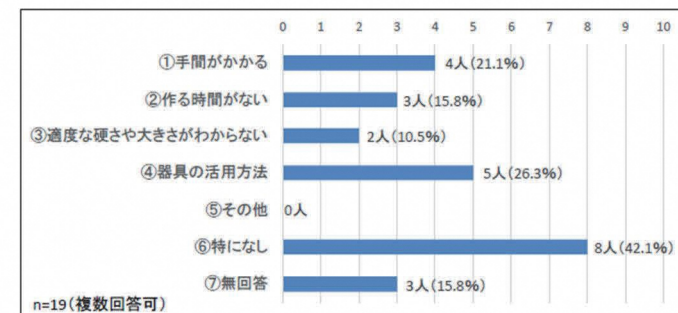
	人数(人)	割合(%)
わかりやすかった	17人	89.5
ふつう	1人	5.3
むずかしかった	0人	0.0
無回答	1人	5.3



- ・講話は、栄養士、歯科衛生士ともに80%以上の方が「わかりやすかった」と回答しているため、対象者に合わせた講話内容になっていると考えられる。
- ・かんたん編のアンケートで「お口のことで詳しく知りたいこと」について聞いており、今回の講話に入れてもらったので満足されているのではないかと考える。

●介護食づくりに困っていること(回答者19名 複数回答)

	人数(人)	割合(%)
①手間がかかる	4人	21.1
②作る時間がない	3人	15.8
③適度な硬さや大きさがわからない	2人	10.5
④器具の活用方法	5人	26.3
⑤その他	0人	0.0
⑥特になし	8人	42.1
⑦無回答	3人	15.8



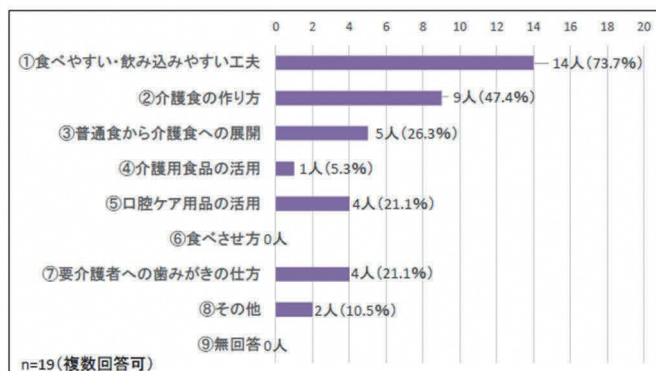
考察

- ・食事づくりに困っていることに「①手間がかかる」「②作る時間がない」「③適度な硬さや大きさがわからない」「④器具の活用方法」などがある。
- ・講話の中で食事の形態(適度な硬さや大きさ)、食べやすい食事の工夫、圧力鍋を使って軟らかく煮る方法、ペーストにするためのブレンダー・ミキサーの紹介をしている。

●教室に来て参考になったこと(回答者19名 複数回答)

	人数(人)	割合(%)
①食べやすい・飲み込みやすい工夫	14人	73.7
②介護食の作り方	9人	47.4
③普通食から介護食への展開	5人	26.3
④介護用食品の活用	1人	5.3
⑤口腔ケア用品の活用	4人	21.1
⑥食べさせ方	0人	0.0
⑦要介護者への歯みがきの仕方	4人	21.1
⑧その他	2人	10.5
⑨無回答	0人	0.0

「⑧その他」の詳細: 鍋の使い方、栄養価

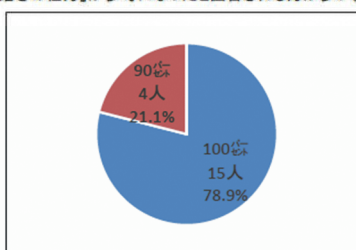


考察

- ・講話や調理実習を通して「①食べやすい・飲み込みやすい工夫」を伝えることができています。
- ・歯科衛生士の講話では「口腔ケア用品の活用」や「要介護者への歯磨きの仕方」が参考になったと回答される方が多い。

●満足度

	人数(人)	割合(%)
100%	15人	78.9
90%	4人	21.1
80%	0人	0.0
70%	0人	0.0
60%未満	0人	0.0
無回答	0人	0.0
合計	19人	100

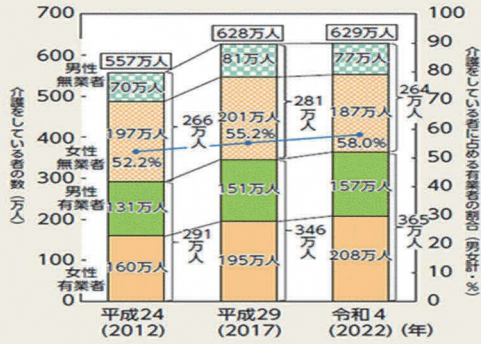


●考察

- ・女性の参加者が100%で、ほとんどの方がかんたん編の教室終了後に申し込みをされていた。
- ・参加者自身に、むせがあったり、今までの食事に食べにくさを感じている方もいる。現在介護中でなくても介護食づくり教室の内容は役に立っているのではないかな。
- ・歯科衛生士の講話では、質問もありメモを取られる方も多く関心の高さがうかがえた。
- ・昨年度申し込みが多かったため、くわしく編を2回に増やした。2回とも定員いっぱいになり、介護食への関心の高さがうかがえた。9月のかんたん編から2月まで期間が開いてしまうので、来年度は9月と2月に分けてくわしく編を開催したい。
- ・70代以上の高齢の参加者が多いので、むせるようになったや硬いものが食べづらくなったと自身の身体の変化を感じている方もいる。また、歯の治療中で食べづらさを感じている方もいる。講話や調理実習を通して、調理の際の工夫や栄養について伝えるようにしている。
- ・圧力鍋は持っているが面倒で使っていない方もいる。今年度は、各班で圧力鍋を使って調理したものを試食してもらい、便利さや軟らかさなどを実感してもらった。ブレンダーは手軽なため教室に参加して購入を検討される方が多い。器具の活用方法は今後も紹介していきたい。

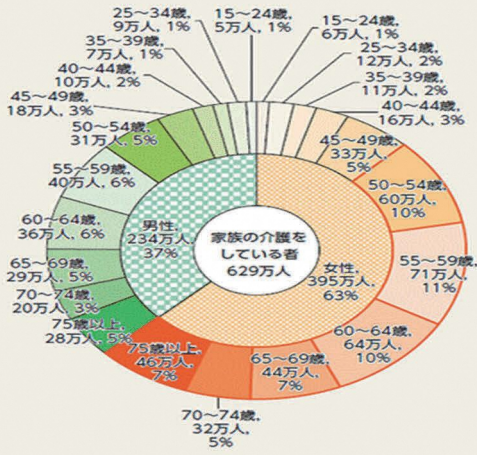
また、男女共同参画白書令和6年度版によると、家族の介護をしている者の割合等は以下のとおりである。

特一 7 図 家族の介護をしている者の推移  
(男女、就業状況別)



(備考) 1. 総務省「就業構造基本調査」より作成。  
2. 「家族の介護をしている」には、介護保険制度で要介護認定を受けていない者や、自宅外にいる家族の介護も含まれる。ただし、病気などで一時的に寝ている者に対する介護は含まない。

特一 8 図 家族の介護をしている者の数及び割合  
(男女、年齢階級別・令和4 (2022) 年)



作っている介護食の例は以下のとおりである (かんたん編)。



## R6 かんたん編 ①

～献立～

- ★ごはん
- ★やわらか肉野菜炒め
- ★マッシュカぼちゃ
- ★バナナジュース

佐世保市介護食づくり教室

### ★ごはん

(熱量 234kcal、蛋白質 3.8g、脂質 0.5g、カルシウム 5mg、食塩相当量 0g)

材料 (2人分)		
ごはん	150g×2	食べにくいときは、軟飯・全かゆなど食べやすい硬さのものを。



野菜は繊維を断つように切ると、軟らかく食べやすくなります。肉はかたくり粉をまぶすことで、肉の水分を逃さずに調理でき、表面もつるりとして食べやすくなります。



### ★やわらか肉野菜炒め

(熱量 193kcal、蛋白質 17.0g、脂質 10.2g、カルシウム 43mg、食塩相当量 1.7g)

材料 (2人分)		作り方
鶏もも肉	160g	① 鶏もも肉は一口大に切り、かたくり粉をまぶす。
かたくり粉	小さじ1	
キャベツ	140g	
玉ねぎ	60g	
にんじん	20g	
油	大さじ1	② キャベツはめん棒などで全体の太い軸をたたき、軸を断つようにして2cm幅に切る。玉ねぎは繊維を断つように薄切りにし、にんじんは細切りにする。
酒	大さじ1	
鶏がらスープの素	小さじ1	
オイスターソース	小さじ1	
黒こしょう	少々	③ フライパンに油を入れて中火で熱し、①を炒める。表面に火が通ったらにんじん、玉ねぎ、キャベツを加えて炒める。
		④ 酒をふってふたをし、弱火で蒸し焼きにする。軟らかくになったら鶏がらスープの素、オイスターソースを加える。
		⑤ 皿に盛り、お好みで黒こしょうをかける。



かぼちゃはフードプロセッサーを使用すると、よりなめらかになります。サンドイッチの具としても使えます。

### ★マッシュかぼちゃ

(熱量 94kcal、蛋白質 2.3g、脂質 5.5g、カルシウム 12 mg、食塩相当量 0.2g)

材料 (2人分)	作り方
かぼちゃ 100g	① かぼちゃは皮をむいて適当な大きさに切り、軟らかくなるまでゆでる。 ② グリンピースはゆでた後薄皮をむく。ロースハムは食べやすい大きさに切る。 ③ ①をつぶし粗熱がとれたら、ロースハムとマヨネーズを加えて混ぜる。皿に盛り付けグリンピースを飾る。
グリンピース(冷凍) 10g	
ロースハム(1枚) 10g	
マヨネーズ 大さじ1 (12g)	



骨粗しょう症の予防のためにはカルシウムを十分に摂取することが大切です。牛乳・乳製品はカルシウムの吸収率が高いので、積極的に摂ることを心がけましょう。

### ★バナナジュース

(熱量 129kcal、蛋白質 4.3g、脂質 4.1g、カルシウム 133 mg、食塩相当量 0.1 g)

材料 (2人分)	作り方
バナナ 60g (1/2本)	① バナナは皮をむいてボウルに入れフォーク等をつぶし、はちみつと混ぜておく。
はちみつ 20g	
牛乳 140ml	② ①に牛乳・ヨーグルトを入れ、味がなじむように泡だて器で混ぜ、冷やしてからグラスにそそぐ。
ヨーグルト 80g	

#### 合計

栄養量 (1人分)	熱量	蛋白質	脂質	カルシウム	食塩相当量
	650kcal	27.4g	20.3g	193mg	2.0g

※記載されている材料は基本的に2人分ですが、栄養価は1人分です。

#### 【評価】

調理難易度によって内容を「かんたん編」と「くわしく編」に分けるなど、

工夫を凝らしている様子が伺え、教室の参加者の満足度も良好である。アンケートも適切に実施しており、参加者のニーズを踏まえて事業の改善も試みられている。教室の参加目的に「仲間づくり」を挙げている者も少なくなく、教室自体が介護に関わる者の交流の場としての役割も担っている。

### 【意見】

参加者70人中男性1名のみと、ほぼ女性だけが教室に参加している状況であるが、家族の介護をしている者は女性だけではなく、男性も介護食について学ぶ必要があることから、男性の需要も少なくないと思われる。男性を対象に広報を検討する、男性だけが参加する回を設けるなど、男性の参加者を増やすための取組を行っていただきたい。

## エ おむつ購入費支給事業

### (ア) 概要

日常적으로おむつが必要な在宅の非課税世帯に属する要介護者に対し、おむつ購入費を支給する事業であり、介護保険の給付対象外となっている介護に必要なおむつ等に要する費用の一部を、購入後の申請により補助している。(但し償還払い)

### (イ) 現状と課題

第8期計画において、新型コロナウイルス感染症の蔓延による在宅者の増加とおむつの単価上昇の影響で、実績は計画を上回る結果となった。

在宅の要介護認定者を介護する家族等の経済的負担を軽減する事業であり、今後も介護をする家族等の支援のため事業を継続していく必要がある。支給対象者の増加とおむつの単価上昇に伴い、保険料負担の増加が懸念されるため、支給対象要件の見直しも検討してい

く必要がある。

(ウ) 実績等

■実績と計画

		令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
支給件数	計画	8,063件 22,184千円	8,000件 22,000千円	8,000件 22,000千円	9,450件 28,525千円	9,450件 28,525千円	9,450件 28,525千円
	実績	8,334件 23,526千円	8,505件 24,660千円	8,567件 27,799千円			

※令和5（2023）年度の実績は見込み

2024（令和6）年度の実績としては、件数8753件、2639万8964円の支出がなされ、執行率は92.5%であった。

							単位: 件
件数	R6	市町村特別給付					計
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
		非課税	非課税	非課税	非課税	非課税	
	5月	212	213	130	108	43	706
	6月	255	216	147	86	70	774
	7月	202	221	124	105	46	698
	8月	187	228	173	105	51	744
	9月	210	169	149	119	64	711
	10月	221	210	133	104	59	727
	11月	233	215	147	110	48	753
	12月	196	219	150	137	45	747
	1月	205	237	148	109	67	766
	2月	207	201	146	125	48	727
	3月	186	202	139	95	56	678
	4月	215	207	139	104	57	722
	計	2,529	2,538	1,725	1,307	654	8,753

							(単位:円)
支給額	R6	市町村特別給付					計
		要介護1 非課税	要介護2 非課税	要介護3 非課税	要介護4 非課税	要介護5 非課税	
	5月	515,780	540,287	355,788	471,568	190,239	2,073,662
6月	645,339	553,694	418,733	360,935	322,288	2,300,989	
7月	507,856	575,264	335,748	443,573	214,846	2,077,287	
8月	481,678	588,157	469,960	466,447	228,906	2,235,148	
9月	537,289	453,347	406,916	523,327	290,595	2,211,474	
10月	561,519	530,175	357,583	432,815	244,793	2,126,895	
11月	600,013	552,218	422,817	488,940	220,376	2,284,364	
12月	495,924	560,417	419,291	602,805	195,482	2,273,919	
1月	521,188	622,729	411,772	478,960	312,584	2,347,233	
2月	535,458	524,749	400,719	553,922	228,453	2,243,301	
3月	473,422	503,588	384,836	414,087	238,122	2,014,055	
4月	540,778	556,832	374,156	464,958	273,923	2,210,647	
計	6,416,244	6,561,457	4,758,319	5,702,337	2,960,607	26,398,964	
平均支給額	2,537円	2,585円	2,758円	4,363円	4,527円	3,016円	
				支出計	予算	執行残	執行率
				26,398,964	28,525,000	2,126,036	92.5%

### 【評価】

本事業は非課税世帯の家計負担の解消の一助となっているところ、需要を見越した予算の確保も適切になされている。今後も、支給要件等の見直しも含め、適切に事業を継続していただきたい。

### 第3 高齢者の尊厳と権利を守る環境づくり

#### 1 相談体制充実事業

##### (1) 総合的な現状の分析と課題

###### ア 現状の分析

佐世保市では、認知症の初期の相談は少なく、重症化して相談を受けることが多く、介入困難な場合が多くなっていると分析される。なお、要介護認定者において、認知症高齢者の割合は増加傾向にある。

そして、認知症の人の意見を聞く本人ミーティング等の場が少ないため、本人の意見が事業等に反映されにくい状況にあると分析される。

###### イ 今後の課題・問題点

一人暮らし高齢者や認知高齢者等が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる「地域共生社会」を目指し、身近な地域で支えていく体制の強化、充実が必要である。

##### (2) 訪問指導

###### ア 事業概要

訪問指導事業は、健康増進法及び高齢者の医療の確保に関する法律（旧老人保健法）に基づき、在宅の要援護高齢者やその家族を対象に保健師等が家庭を訪問し、心身機能の低下予防、健康保持推進等の療養上の相談・指導、及び介護福祉サービスの紹介などを行う事業である。また、関係機関との連絡・調整を図ることで本人・家族を支援する。

###### イ 現状と課題

佐世保市では、保健師等が自宅を訪問し、対応困難な要援護高齢者やその家族に対して、療養上の指導や介護福祉サービスの紹介などを行っている。また、85歳以上の一人暮らし高齢者に対し、介護予防の啓発を行い、また、要援護者の把握を行い、関係機関と連絡調整を図りながら、本人や家族を支援している。

2020（令和2）年度に高齢者相談管理システムを導入後、独居高齢者の対象者を85歳から75歳に引き下げ、予防的な訪問に力を入れている。

高齢者の親と未婚の子のみの世帯、高齢夫婦のみの世帯、単独世帯が増加しているため、認知症や虐待ケースなど対応困難な事例も増加しており、早急な対策が必要である。

#### ウ 今後の方針

佐世保市では上記イの現状と課題に鑑みて、以下のとおりの方針を掲げる。

社会的に孤立した高齢者などが増加すると考えられるため、地域包括支援センターとの連携強化を図りながら支援を行う。

適切かつ効率的な訪問指導につなげるため、訪問や相談のあった高齢者等の情報等を一元管理する「高齢者相談管理システム」を活用し、情報の共有と有効活用に努める。

後期高齢者の数の増加に伴い、対応の効率性を上げるため、長寿社会課と地域包括支援センターの役割を明確にして対応していく必要がある。

独居高齢者の数の増加も予想されるため、地域の見守り支援との連携を図り、特に75歳以上の独居高齢者を優先的に訪問し要介護状態の重症化予防や認知症の早期発見など、健康の保持と増進に取り組む。

#### エ 具体的な施策等

##### （ア）訪問実績

総合的な訪問実績は、以下のとおりである。2024（令和6）年度は、アンケートを郵送することとしていたため、計画数は郵送分も含まれており、計画数が多くなっている。概ね目標は達成している状況である。

		令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
訪問数	計画	2,695人	2,711人	2,727人	4,210人	2,903人	2,889人
	実績	880人	1,525人	1,434人	3,488人		

以下は、上記訪問数の内訳等詳細である。

a 訪問実績

	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標
高齢者数	78,386	78,516	78,245	77,973	76,163	77,641
①対応困難な ケースへの訪問	401	287	256	304	262	306
②病院・診療所からの 連絡ケースへの訪問	32	28	12	5	2	6
③介護保険給付対象者 プラン評価訪問	0	0	0	0	0	0
④介護家族への訪問	153	114	77	74	49	43
⑤第2号被保険者 への訪問	20	5	0	7	1	2
⑥疾病予防・健康保持 のための訪問	588	155	768	427	405	0
うち独居訪問	444	143	407	271	283	
うちその他	144	12	361	156	122	
⑦調査	87	210	272	489	510	690
⑧その他	174	81	140	128	177	70
合計	1,455	880	1,525	1,434	1,406	1,117
内、40歳～64歳	179	126	91	94	108	

b アンケート調査件数

	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標
疾病予防・健康保持のため の調査(独居高齢者)					2,082	

実際に送付したアンケートは以下のとおりである。

### お困り事相談票

1. 長寿社会課の保健師による自宅訪問を希望しますか？

希望する ・  希望しない

2. 長寿社会課の保健師からの電話連絡を希望しますか？

希望する ・  希望しない

1か2で希望すると答えた方は、名前・電話番号を記入してください。

名前： \_\_\_\_\_

電話番号： \_\_\_\_\_

3. 困り事があるときに、相談したり助けしてくれるご家族や知り合いの方が身近にいらっしゃいますか？

いる ・  いない

4. 普段の生活の中で、今困っていることはありますか？

ある ・  ない

5. かかりつけ医はありますか？

ある ・  ない

6. 過去1年間に歯医者に行きましたか？

はい ・  いいえ

同封している返信用封筒で、5月31日(金)までにご返信ください。



期日までに返信がない場合や内容によって、  
連絡させていただく場合がございます。ご了承ください。  
ご協力ありがとうございました。

424

佐世保市役所長寿社会課高齢支援係

なお、同アンケートは、2023（令和5）年度末までに事業対象者の訪問が必要な方の把握と、把握したうえで訪問不要である方の振り分けが完了したことから、未把握である3396名の対象者に送付したもので、2082名の返信があった。

アンケート結果は以下のとおりである。

自宅訪問希望		困りごと	
不明	740	不明	753
無	1167	無	1134
有	175	有	195
返信なし	1314	返信なし	1314
<b>総計</b>	<b>3396</b>	<b>総計</b>	<b>3396</b>
電話希望		かかりつけ医	
不明	740	不明	749
無	1058	無	102
有	284	有	1231
返信なし	1314	返信なし	1314
<b>総計</b>	<b>3396</b>	<b>総計</b>	<b>3396</b>
記名あるか		歯科受診	
不明	745	不明	752
無	109	無	474
有	1228	有	857
返信なし	1314	返信なし	1314
<b>総計</b>	<b>3396</b>	<b>総計</b>	<b>3396</b>
相談者			
不明	750		
無	191		
有	1142		
返信なし	1314		
<b>総計</b>	<b>3396</b>		

## 【評価】

佐世保市では、訪問数の目標を概ね達成できており評価できる。

なお、佐世保市では、2025（令和7）年度以降は、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体化実施と併せて、75歳から85歳を対象に健康生活アンケートを郵送する予定であるとのことである。人的資源や予算が限られる中、関連する他事業との一体化実施を行うことは効率的であり評価できる。

なお、実際に送付したアンケートは、以下のとおりであるが、内容に過不足なく、関連する事業に係る教室等の案内も行っている。また、オンラインでの回答も可能となっており、回答率の向上も今後見込まれるのではないかと史料され、評価できる。

今後は、下記高齢者相談管理システムも活用し、アンケートの回収率やアンケート内容から得られた情報の分析を行い、よりよい訪問指導システムが構築できるよう対応することを期待する。

〒○○○-●●○○○  
佐世保市○○町○○番  
○○ ○○ 様

## 健康生活アンケートについて

佐世保市では、令和7年度から、住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らすことお手伝いするため、医療や健診受診がないと思われる方や一人暮らしと思われる方へ、健康状態や生活の様子を健康生活アンケートでお聞きしています。

記入済みのアンケートは、令和●年●月●日(●)までに佐世保市長寿社会課高齢支援係へ返送をお願いします。

## 返送期限：令和●年●月●日(●)

ご記入いただいた個人情報(住所等)は、事業目的以外には使用いたしませんのでご安心ください。  
なお、健康状態や生活に心配がある方、返信がない方については、長寿社会課高齢支援係の保健師から電話や家庭訪問などを行う場合がありますので、ご了承ください。  
ご不明な点は以下までお問い合わせください。

【お問い合わせ】 佐世保市長寿社会課高齢支援係 担当：○○、○○  
電話 0956-24-1111 (内線○○○○)

オンライン回答も可能です。こちらから回答ください。  
<https://x.gd/OuzMs>  
スマートフォンをお持ちの方は、右のコードを読み取ることで回答いただけます。  
【オンライン回答用番号 ○●○○○番】



あなたのお住いの地域包括支援センター  
地域包括支援センター名 ○○地域包括支援センター  
住所 佐世保市○○町○○番地  
電話 ○○-○○-○○○

オンラインでも回答可能です。オンライン回答番号 ●●●●●

記入日 令和7年 月 日 電話番号

問1 かかりつけの病院・診療所はありますか。(医療機関名は複数回答可)

いいえ はい 病院・診療所名

問2 以前、次の病気を治療した経験はありますか？あてはまるものすべてに✓を付けて下さい。(現在治療中のもも含みます)

なし 高血圧症 糖尿病(予備群含む) 脂質異常症(高脂血症) 腎臓病  
脳卒中(脳梗塞・脳出血) 狭心症・心筋梗塞・不整脈 肝臓の病気 がん  
骨粗しょう症 歯周病 うつ病や心の病気 その他(下の枠内に病名をお書きください)

問3 現在、気になる自覚症状(自分で感じている症状や感覚)はありますか

いいえ はい 内容

問4 かかりつけの歯医者は持っていますか。(医療機関名は複数回答可)

いいえ はい かかりつけ歯科医院名

問5 今年(R7.4月からR8.3月)、健康診断(特定健診等)を受診しましたか。

受診なく、予定なし(血液検査を定期的に受けているので必要ないなどの理由も含む)  
受診予定 令和 年 月 頃  
受診した 令和 年 月 頃  
問題なし 経過観察に該当 病院受診を勧められた(要精密検査等)  
その他

問6 ご自身の健康について、佐世保市の保健師に相談したいことはありますか。

相談しない 今はまだ大丈夫だ 相談したい  
(相談内容/相談したい内容を枠内に記入ください)

問7 当てはまる項目に✓を記入してください。

あなたの現在の健康状態はいかがですか よい まあよい まあ あまりよくない よくない  
毎日の生活に満足していますか 満足 やや満足 やや不満 不満

問8 当てはまる項目に✓を記入してください。

①自分の今の身長や体重を知っていますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	身長 <input type="text"/> cm 体重 <input type="text"/> kg
②自宅で血圧を測定して、普段の血圧を知っていますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	最高血圧 <input type="text"/> mmHg 最低血圧 <input type="text"/> mmHg
③自分の血糖に関する数値(HbA1c)を知っていますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	数値 <input type="text"/> %
④日常的に取り組んでいる知的活動がありますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> 脳トレ <input type="checkbox"/> パズル <input type="checkbox"/> クイズ <input type="checkbox"/> 新聞を読む <input type="checkbox"/> 音楽を楽しむ
⑤周囲の人や地域との交流がありますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> サロン <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> ご近所の方 <input type="checkbox"/> 公民館活動 <input type="checkbox"/> 民生委員
⑥体調が悪い時に、身近に相談できる人はいますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
⑦あなたはたばこを吸いますか	<input type="checkbox"/> 吸っていない <input type="checkbox"/> やめた <input type="checkbox"/> 吸っている	
⑧何をどれだけ食べたいのかが知っている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
⑨飲酒をしていますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	量・頻度
⑩1日3食きちんと食べていますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	⑤いきいき 元気食事づくり 教室 ①介護予防 活動団体 ②脳の健康チェック ③脳活教室 ④介護予防活動団体 ⑤元気アップ教室
⑪半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑫お茶や汁物等でもせることがありますか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑬6か月間で2-3kg以上の体重減少がありましたか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑭以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いませんか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑮この1年間に転んだことがありますか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑯ウォーキング等の運動を週1回以上していますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
⑰周りの人から「いつも同じこと聞く」など物忘れがあると 言われていますか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑱今日が何月何日分からない時がありますか	<input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> はい	
⑲週に1回以上は外出していますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
⑳普段から家族や友人と付き合いがありますか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	

※裏面には、佐世保市で取り組める活動を載せていますので活用ください。

佐世保市では高齢者の介護予防ため、下記の各種教室等を行っています。

名称	内容	対象	問い合わせ先
① 介護予防活動団体(100歳体検等)	佐世保市内300以上の団体が活動しており、地域で週1回の運動ができる。団体によっては生活習慣予防について学ぶ機会、脳トレやレクリエーションなど多彩な活動も取り入れられている。	全佐世保市民	地域包括支援センター 【電話番号】 ※1枚目参照
② 脳の健康チェック	脳の健康(認知症の予防の必要性)を確認できる検査。ゲーム感覚で行える。 ※タブレットを使用しますので予約が必要です。	全佐世保市民	長寿社会課 高齢支援係 【電話番号】 0956-24-1111 ※1枚目参照
③ 脳活教室	座学・運動・知的活動のプログラムを集団で行う教室(週1回20回)	脳の健康チェックを受け、積極的な認知症の予防が必要と判断された方	
④ 元気アップ教室	スポーツジム等で行うプログラムを体験できる教室(週1回12回)	・脳活教室の対象者 65歳以上で ・外出が週1回未満 ・外出の目的が通院と買物のみの方 ・家族や友人との定期的な交流がない方	
⑤ いきいき食事づくり教室	元気で楽しい高齢期を過ごすための生活の工夫・口腔ケア・栄養予防の講話の後、調理実習を行います。	・高齢者やその家族 ・介護予防について学びたい方	健康づくり課 【電話番号】 0956-24-1111
⑥ 健康診査	血液検査、血圧、尿検査等が年1回無料で受診できます。	後期高齢者医療保険加入者	医療保険課 【電話番号】 0956-24-1111

## (イ) 高齢者相談管理システム

高齢者相談管理システムは、一般的に高齢者の健康・生活相談を一元的に管理し、介護予防ケアマネジメントや関係機関との情報連携を効率化するITシステムである。これにより、相談内容の把握、支援経過の追跡、関係部署や委託先とのスムーズな情報共有、報告書作成などが可能になる。

佐世保市では2020（令和2）年度から導入している。訪問指導業務では、高齢者やその家族に係る相談内容や生活実態を記録することで、記録入力の効率化、記録検索の迅速化の効果があり、業務時間の効率化を図ることができている。

また、上記のとおり認知症や虐待事例が増加するなか、認知症高齢者支援や高齢者虐待防止業務といった他業務が保有する情報をシステムデータ連携することで、支援対象者の多角的な状況把握が可能となり、適切な支援につなげることができている。

### 【評価】

佐世保市では、高齢者相談管理システムを導入することで、業務の効率化、適切化を図ることができていると評価できる。

### 【意見】

高齢者相談管理システムによっては、外部データとの連携機能もあり、委託先事業所とのデータ連携もできるようである。下記（ウ）のとおり、委託先事業所である地域包括支援センターの役割も比重を増してきているなか、地域包括支援センターの業務効率化、また、地域包括支援センターとの連携強化という観点が必要になってくると考えられる。予算の問題等もあろうが、地域包括支援センターの高齢者相談管理システムの利用、そのうえでのデータの連携も

検討すべきである。

(ウ) 地域包括支援センターとの連携、役割分担

地域包括支援センターは、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療・介護・福祉等様々な面からサポートを行う機関であるところ、佐世保市では、9箇所の地域包括支援センターが運営されている。

佐世保市では、2013（平成25）年度から訪問指導全体を9か所の地域包括支援センターに業務委託し、委託後は、同センターと連携を行い、困難ケース等の対応に努めている。そのため、佐世保市の担当部署である長寿社会課では、困難事例や虐待ケース、独居高齢者訪問に対する訪問を中心として担当している。

今後も、さらに認知症や虐待ケース等の対応困難ケースが増加し、業務量の増加が見込まれる一方、地域包括支援センターにおいて困難ケースも対応できているところも増えているため、長寿社会課では、独居高齢者の訪問等の予防活動に注力するなどの役割分担をしている。

**【意見】**

地域包括支援センターの対応能力が向上している一方で、地域包括支援センターごとに能力の差がある状況は否めないとのことである。今後対応困難ケースが増加することが見込まれるため、地域包括支援センターの対応方法を統一すること、必要に応じて地域包括支援センターへの指導を行うことを早急に対処する必要があると思料する。

## (エ) その他関係機関との連携

上記(ウ)記載のとおり、地域包括支援センターが主に関わっているケースで、対応困難と判断したケースにおいては、長寿社会課の地区担当保健師に相談があがってくる。

その際に、関係している関係機関との連携が必要な場合には、医療機関や民生委員・児童委員、ケアマネジャー等と関係者会議を開催し、連携を図っている。

このとき、各関係機関の役割を明確にするために、各機関の役割分担も決め、多機関で対象者に関われるように注意している。

また、保健福祉政策課の地域推進室に相談を上げ、重層化会議を開催し、関わることもある。

## (3) 認知症対策

### ア 事業概要

#### (ア) 認知症対策（高齢者の認知症等相談事業）

高齢者の認知症等相談事業は、認知症施策推進大綱及び共生社会の実現を推進するための認知症基本法に基づき、認知症の方とその家族及びそれを支える介護保険事業所及び市民を対象に、認知症の方と家族が安心して住み慣れた地域で生活できるようにすることを目的に、①認知症対策検討会を開催、②認知症地域支援推進員の配置、③認知症対応力向上研修会を開催、④認知症の普及啓発、⑤認知症を考える講演会の開催などを行う事業である。

#### (イ) 認知症対策（認知症初期集中支援推進事業）

認知症初期集中支援推進事業は、上記(ア)の法令等と同様の根拠に基づき、認知症もしくは認知症が疑われる者のうち対応が困難な者を対象として、複数の専門職がその家族を訪問し、認知症の専門医による鑑別などを踏まえ、観察・評価を行い、本人や家族支援などの

初期支援を包括的・集中的に行い、自立生活サポートを行う事業である。

#### イ 現状と課題

佐世保市では、認知症の方への支援の充実を図るために、認知症地域支援推進員を配置し、医療・介護等の支援ネットワークの構築や、認知症対応力向上に向けた研修等を行っている。

また、2017（平成29）年度から「認知症初期集中支援チーム」を配置し、対応困難な認知症高齢者宅を精神科医や専門職が訪問し、認知症専門医による鑑別診断等を踏まえて、観察・評価を行い本人や家族への初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行っている。一方で、認知症を早期から相談する体制整備が進んでおらず、認知症早期発見後に対応する認知症地域支援推進員の拡充配置と充実化が必要である。

また、認知症になっても地域で暮らし続けられるよう、認知症地域支援推進員を中心に、認知症診断後の支援体制の強化を図ることや、かかりつけ・サポート医・疾患センターとの連携を強化することが必要である。

さらに、認知症になっても地域で安心して暮らせるまちづくりの強化として、圏域ごとのチームオレンジの構築や地域版のケアパスの作成も必要である。

その他、認知症当事者の視点に立った認知症施策の実施のため、家族も含めた世帯への支援も重要であり、認知症当事者、家族、支援者の声を反映させるコミュニケーションの場の充実化と施策展開も検討の必要がある。

#### ウ 今後の方針

佐世保市では、上記イの現状と課題に鑑みて、以下のとおりの方針を

掲げる。

医療と介護の連携や、各関係機関との連携を強化し、また、市民への認知症の理解を得るための啓発活動を今後も継続していく。

また、認知症の方への生活支援体制を整備し、関係機関、サポーターなどを含んだネットワークを構築する。

「認知症初期集中支援チーム」については、早期に認知症高齢者やその家族に関わるような支援体制を整えていく。

認知症地域支援推進員を中心として、各圏域に認知症ケアパスの作成などを通じて普及啓発活動を実施する。また、早期発見後の医療や介護との連携を強化し、必要な支援につなげる役割を果たし、認知症になっても地域で暮らし続けられるまちづくりをめざす。

## エ 具体的な施策等

### (ア) 認知症地域支援推進員の設置

認知症地域支援推進員は、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、認知症の人への効果的な支援を行うために、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関をつなぐ、コーディネーターとしての役割を担う者である。

認知症地域支援推進員の活動内容は、以下のとおりである。

内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
認知症地域支援ネットワーク会議	4回 (Web)	4回 (Web)	4回 (Web)	
認知症対策検討会 (年2回開催)	2回 (Web)	2回 (Web+集合)	2回 (Web+集合)	
地域包括支援 センター関係	ケース支援 (訪問・相談)	1167人	1109人	1450人
	会議支援 (個別・関係者)	203回	231回	250回
認知症講演会	隔年実施	R5.9.29開催 219名	隔年開催	
講師依頼 (出前講座・物忘れ相談プログラム)	192回	145回	157回	
認知症の人と家族の会	16回	12回	16回	

(本人・家族の交流会)			
認知症カフェ（開拓・支援）	132回	168回	118回
認知症初期集中支援事業	3件	4件	2件
チームオレンジ構築事業	70回	53回	30回
脳活教室へのつなぎとフォロー	49回	95回	91回

認知症カフェとは、認知症の方やその家族、地域住民、専門職などが気軽に集い、交流や情報共有を通じて安心できる居場所を提供する場のことである。推進員は、認知症カフェの立ち上げ・運営支援を行う。現在、佐世保市では10か所の認知症カフェがある。

## 【評価】

概ね事業の目標は達成できているようであり、評価できる。

### (イ) 認知症の早期発見及び相談のための体制

佐世保市では、認知症を早期に発見し、相談につなげるための体制づくりの一環として、物忘れ相談プログラムを実施している。物忘れ相談プログラムは、認知症診断・予防の第一人者である鳥取大学浦上克哉教授が考案したプログラムをタッチパネルコンピューターに搭載し自動化したものであり、質問項目が少なく、タブレットとの対話方式でセルフチェックできるものである。

佐世保市の開催する出前講座やイベント等で検査希望のある方に、タブレットを用いながら、MSP及びTDASの検査を行う（MSP検査にて、再検査が必要と判断された方に対し、TDAS検査を案内する。）。

なお、MSPは15点満点であり、13点以上で現時点では物忘れに関して心配はならないという結果になる。

T D A S の判断基準は、0～6点が正常域、7～13点が予防域、14点以上が専門医受診、また、経過時間が30分以上の場合には認知症の疑いがあるということになる。

2020（令和2）年10月より物忘れ相談プログラムを導入して以降の検査実施状況は以下のとおりである。

①（MSP）導入後の検査実施状況

年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計
市内サロン総数	281	286	296	316	316	
検査申込サロン数	8	13	18	15	7	
申し込み割合	3%	5%	6%	5%	2%	
サロン・出前講座での 検査実施者数	83	192	280	235	295	1085
個別相談での 検査実施者数	8	9	30	9	5	61
検査実施者 合計	91	201	310	244	300	1146

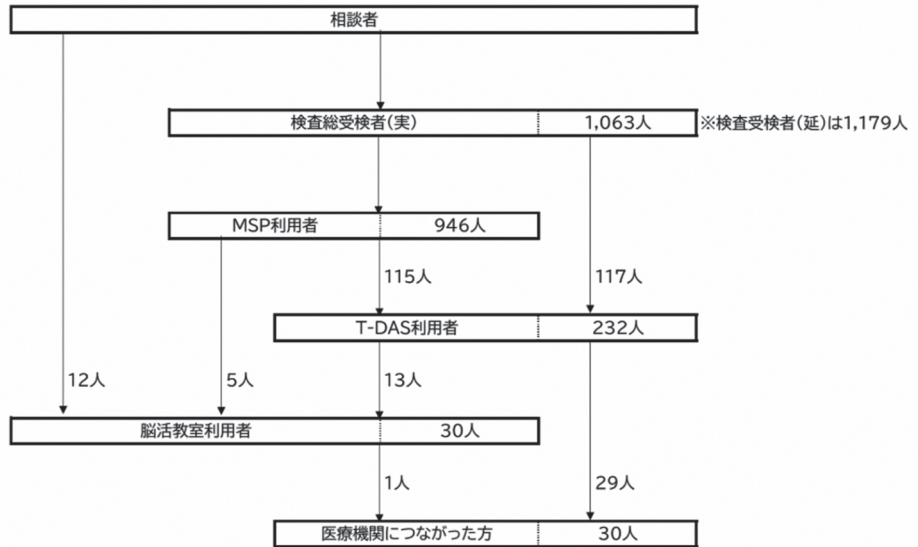
②（T-DAS）導入後の検査実施状況

年度	R2	R3	R4	R5	R6	合計
検査実施者数	12	34	72	51	88	257

※①、②ともにR6は、R6.7末時点での実績

また、相談者のその後の流れの概要は以下のとおりである。

令和6年度 認知症関連事業の流れ(R7.3.31時点)



T-DAS実施なし者の処遇について

	MSP 6 点以下	MSP 7 ～ 1 2 点	MSP13点以上 かつ図形 1 ×	計	割合
疾患医療センターへのつなぎ	0	1	0	1	0.6%
かかりつけ医へ相談を勧める	3	15	4	22	13.3%
脳活教室参加	0	1	0	1	0.6%
サロンでの包括等による見守り	0	15	17	32	19.4%
包括へ情報提供 (サロン参加なし)	0	5	0	5	3.0%
本人への情報提供のみ (T-DAS・脳活教室)	0	25	33	58	35.2%
すでに治療中や介護保険利用中	5	11	0	16	9.7%
T-DAS調整中・後日TEL	0	10	4	14	8.5%
その他	3	6	7	16	9.7%
計	11	89	65	165	

T-DAS合計点数

T-DAS合計点数	人数
6点以下 (問題なし)	132
7～13点	67
14点以上	33
計	232

左記人数の内訳→

	人数	割合
脳活教室案内	29	29.3%
疾患医療センター受診	6	6.1%
かかりつけ医	23	23.2%
個別フォロー中	9	9.1%
再検査予定	4	4.0%
サロン・包括フォロー	17	17.2%
ケアマネ	7	7.1%
フォローなし (操作ミス等)	4	4.0%
計	99	

## 【評価】

検査実施者は増加傾向に推移しており、その点は評価できる。また、適宜の医療機関につながっており、また、サロンや地域包括支援センターがフォローしたりなどにつながっており、その点も評価できる。

なお、佐世保市では、認知症の早期発見及び早期支援を目標にしているところ、今後にも必要な支援を行っていただきたい。

### (ウ) 脳活教室

佐世保市では、通所介護事業所、認知症対策型協働生活介護事業所等に委託して、軽度認知障がい（MC I）の方等を対象に、認知機能の改善や身体機能の向上に効果が認められている「とっとり式認知症予防プログラム」を実施する脳活教室を開催している。

実施回数としては、事前訪問に加えて週に1回（約2時間）×20回のプログラムである。内容は、

- ① 有酸素運動、筋力運動などの運動プログラム
- ② 認知症や予防について学ぶ座学プログラム
- ③ 認知機能を刺激する知的活動プログラム

である。

2024（令和6）年度は、5事業所に委託し、全30名（うち3名途中中断）が参加した。

脳活教室後のフォローとしては、認知症地域支援推進員を中心に、脳活教室終了者の支援会議にて今後の方針を決定し、医療や介護等につなぐなどの支援を行っている（上記（イ）の「令和6年度 認知症関連事業の流れ」参照）。